

長崎県埋蔵文化財調査年報 33

[令和 6 年度調査分]

2025

長崎県教育委員会

はじめに

長崎県には先人たちの残した3,800か所を超える遺跡（埋蔵文化財）があります。こうした埋蔵文化財は地域の歴史を物語り、町づくりや人づくりに活用できる国民共有の財産です。私たちはこれら先人から受け継いだ貴重な文化財を適切に保存・活用し、後世の人々に伝えていく責務があります。

長崎県教育委員会では、国・県の公共事業に伴う開発が行われる際には事前に予備調査を行いながら開発部局との協議を行って埋蔵文化財の保護を図り、その結果やむを得ず保護できない場合においては記録保存のための発掘調査を実施しています。

令和6年度は早岐川河川改修工事に伴う本調査や島原道路建設に伴う本調査及び試掘確認調査、県道改良工事に伴う本調査を行いました。また、本県が発掘調査を開始して50年目にあたる原の辻遺跡での内容確認発掘調査、令和5年度から実施している元寇関連遺跡の発掘調査、令和3年度からの水中遺跡分布調査などを実施しました。

また、活用事業として令和4年度から3か年実施してきました「しまの遺跡の魅力」探求事業では、事業の締めくくりにこれまで支援してきました離島を中心とする高校生が研究活動の成果を発表する「高校生遺跡フォーラム」を開催しました。

本書は、令和6年度に長崎県教育委員会及び埋蔵文化財センターが行った全ての発掘調査の概要や調査研究、遺物の保存処理、展示、普及啓発などの事業概要について掲載しております。本書が県民の皆様の地域の歴史や文化への理解の一助になれば幸いです。

令和7年11月

長崎県教育委員会教育長

前 川 謙 介

例 言

- 1 本書は長崎県における埋蔵文化財保護行政の現状と長崎県教育委員会が令和6年度に実施した発掘調査の概要を収録したものである。
- 2 調査遺跡名の【 】内は長崎県教育委員会独自の遺跡調査番号である。
- 3 調査概要の調査地位置図等は長崎県教育庁学芸文化課のウェブコンテンツ『長崎県遺跡地図』を使用している。
- 4 IVについては各遺跡の調査担当者と調査概要の執筆者を文末に記している。
- 5 本書の編集は長崎県埋蔵文化財センター 久保田由佳 が行った。

本 文 目 次

I. 長崎県の埋蔵文化財保護行政の現状	1
1. 県が実施した発掘調査の現状	1
2. 市町が実施した発掘調査の現状	1
II. 本県が主催する文化財保護に関する研修事業	5
1. 長崎県文化財保護行政主管課長会議・担当者会議	5
2. 開発部局・文化財保護部局担当者埋蔵文化財基礎研修	5
3. 埋蔵文化財担当者専門技術研修	6
III. 長崎県埋蔵文化財センターの事業	7
1. 東アジア考古学研究事業	7
(1) 発掘調査事業	7
(2) 長崎県高校生遺跡フォーラム・「しまの遺跡の魅力」探求事業成果展の開催	7
(3) 東アジア諸国の研究機関との連携	8
(4) 長崎県埋蔵文化財センター研究紀要第15号の刊行	9
2. 保存処理事業	9
3. 水中文化遺産保存活用推進事業	11
(1) 県内水中遺跡分布調査	11
(2) 普及啓発など	12
4. 元寇関連保存・活用事業	12
(1) 発掘調査	12
(2) シンポジウム	12
5. 教育普及事業	13
(1) オープン収蔵展示	13

(2) 情報誌	14
(3) ホームページおよびFacebookの公開更新	14
(4) 体験学習	14
(5) バックヤードツアー	15
(6) 資料貸出・閲覧・掲載許可	15
(7) 長崎県立志岐高等学校「東アジア歴史・中国語コース」支援	15
(8) 長崎県内の離島地域における高校生を中心とした授業支援	16
(9) 学校教育支援「埋文MAIBUN学びのサポート」	16
(10) 現地説明会	17
(11) 地元説明会	17
IV. 令和6年度長崎県教育委員会による埋蔵文化財発掘調査の概要	18
1. 上大良遺跡(範囲確認)【202401】	18
2. 倉子遺跡(本調査)【202402】	19
3. 早岐瀬戸遺跡(本調査)【202403】	20
4. 水中遺跡分布調査【202405】	21
5. 少貳資時の墓周辺遺跡(仮)(試掘調査)【202407】	22
6. 弘安の役瀬戸浦古戦場(隣接地)(試掘調査)【202408】	23
7. 稗田原遺跡(本調査)【202409】	24
8. 樋ノ迫遺跡(本調査)【202411】	25
9. 安国寺前遺跡(原の辻遺跡)(隣接地)(試掘調査)【202414】	26
10. 関縁遺跡(原の辻遺跡)(隣接地)(試掘調査)【202415】	27
11. 長崎西役所跡(範囲確認)【202416】	28
12. 島原道路関係試掘・範囲確認調査	29

(報告書抄録)

I. 長崎県の埋蔵文化財保護行政の現状

1. 県が実施した発掘調査の現状

令和6年度における開発に伴う発掘調査では、4件の本調査と11件の範囲確認調査及び試掘調査を実施した。

6か年計画の最終年度となる佐世保市早岐瀬戸遺跡の調査では、昨年度までと異なり町屋を示すような建物遺構等は検出されず、早岐川沿いの傾斜地を平場に造成するような石列や杭列、礫集中等、主に18世紀代の遺構が検出された。ほか、大規模な火災整理土坑や上水道と見られる暗渠跡・石列・玉砂利敷き、中世の大型土坑が検出された。

島原半島では、島原道路建設における出平有明・有明瑞穂・瑞穂吾妻の3区間のうち、用地取得の進捗に合わせ、予備調査を含めた発掘調査を平成30年度から実施してきた。このうち出平有明バイパス区間は昨年度で調査が完了し、現在は瑞穂吾妻バイパス区間に順次着手している。

令和6年度は、瑞穂吾妻バイパス区間で雲仙市内の2遺跡（倉子遺跡・樋ノ迫遺跡）の本調査を実施した。谷際の緩傾斜地にある倉子遺跡では、縄文時代早期の包含層に伴う土器片と集石遺構1基が検出された。谷底平野に位置する樋ノ迫遺跡では、中世以降の畑に伴う区画跡とみられる石列2条が検出された。遺物では中世の土師質土器片や貿易陶磁器片、律令期の須恵器大甕片が出土している。

稗原遺跡では戦国期を主とした遺構・遺物が検出された。中近世の国産土器・陶器や中国・朝鮮系の貿易陶磁器が出土したほか、中国象棋系遊戯駒の出土が特筆される。

上記の内容を含め、県が令和6年度に実施した国・県の公共事業に伴う調査は以下のとおりである。

【県事業】

- ・早岐川河川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査（早岐瀬戸遺跡）
- ・島原道路（瑞穂吾妻バイパス）建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査（倉子遺跡、他）
- ・一般県道礫石原松尾町停車場線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査（稗原遺跡）
- ・島原道路（有明瑞穂バイパス）建設工事に伴う埋蔵文化財範囲確認調査及び試掘調査（下雨粒木遺跡、他）
- ・島原道路（瑞穂吾妻バイパス）建設工事に伴う埋蔵文化財範囲確認調査及び試掘調査（京ノ坪遺跡、他）
- ・一般県道荒牧尾登線道路改良工事に伴う上大良遺跡範囲確認調査

2. 市町が実施した発掘調査の現状

令和6年度は県内市町において、13件の本発掘調査と51件の試掘・範囲確認調査が行われた。なお、佐世保市内で法第92条による試掘調査が別途7件行われているが、これらは、調査原因を作った事業者が、民間調査組織等に直接調査を依頼、施行した民間開発に伴う予備調査である。

雲仙市では、桃山田地区基盤整備事業に伴い、野井山尻遺跡の本発掘調査を行っている。2区からは、縄文時代早期の集石遺構や石器製作址と考えられる遺構が検出されている。石器製作址と考えられる遺構からは、多量の黒曜石、安山岩製の石器類が出土しており、自然面を有する剥離の初期段階の黒

曜石製の剥片、碎片類も見られ、一連の石器製作工程がここで行われていたことをうかがわせる。横田地区基盤整備事業に伴う倉子遺跡の調査では、縄文時代の集石遺構や落とし穴状遺構などが検出されている。2区北側で検出された落とし穴状遺構は、長軸約80cm、短軸約50cm、深さ約90cmの隅丸方形を呈し、遺構の底部中央が約40cm掘り込まれており、杭などを埋設していた可能性がある。また、遺構周辺においては、ピットが複数検出されており、落とし穴に関連する柵列の可能性も指摘されている。

苓岐市の原の辻遺跡では、原の久保地区において土地の造成に伴う本発掘調査を行っている。原の久保地区は、石棺墓や甕棺墓の存在から原の辻遺跡の墓域にあたる場所として周知されており、発掘調査の結果、弥生時代後期後葉から終末期にかけての墓坑4基と古代墓坑1基が検出された。弥生時代の墓坑（SR-04）からは、副葬品として鍛造鉄斧が出土したほか、あわせて検出された区画溝（SD-01）からは、墓坑と同時期の高坏・壺・鉢等も出土している。その他、南島原市の水打場遺跡においては、農業基盤整備事業に伴う本発掘調査が行われており、弥生時代後期と考えられる堅穴住居、溝、土坑、柱穴が検出されており、同市の上横馬場遺跡においても、弥生時代後期のピット、落ち込みが検出されている。

松浦市の中ノ瀬遺跡においては、市道改良工事に伴う本発掘調査が行われている。昨年度からの継続調査で、中世と見られる柱穴群、溝状遺構、炉跡、竈群などが確認されている。遺構内及び遺物包含層中からは、龍泉窯系青磁や同安窯系青磁、白磁、弥生土器、滑石製石鍋、砥石、磨石、敲石、安山岩製及び黒曜石製の剥片石器類などの幅広い遺物が確認されている。

その他、県内市町においては、保存目的の範囲確認調査が3件行われている。松浦市の鷹島海底遺跡では、昨年度検出した船体の一部と見られる木材群の確認調査を行い、これらが弘安の役で沈んだ元軍の沈没船であることを特定した。船体の規模は不明であるものの、船内からは褐釉陶器四耳壺、褐釉陶器壺片、墨書板材、木製品、鉄製金具、指輪状銅製品、短刀、銅製箸の金属製品などの豊富な出土品が見られる。今回の発見により、鷹島海底遺跡においては、合計3隻の元寇船が発見されたことになる。

小値賀町においては、旧平戸藩押役所跡の確認調査が昨年度に引き続いて行われ、柱穴12基、石列2基、素掘りの溝1基が検出されている。長崎市においては、昭和20年に築造された長崎県防空本部跡の確認調査が行われ、防空本部跡に伴う通風孔遺構が確認されている。

令和6年度 長崎県における発掘調査の履歴 (1)

遺跡名	遺跡所在地	調査主体	調査開始日	調査終了日	調査原因	調査種別	調査面積 (㎡)	備考
上大良遺跡	雲仙市	県(埋文)	2024/5/13	2024/5/20	道路	概観	6.0	KDR202401
倉子遺跡	雲仙市	県(埋文)	2024/5/13	2024/6/6	道路	本調査	240.0	KRK202402
早岐瀬戸遺跡	佐世保市	県(埋文)	2024/7/3	2025/1/31	河川	本調査	520.0	HAS202403
早岐山遺跡(隣接地)・第2調査区・第3調査区	島原市	県(埋文)	2024/6/5	2024/6/28	道路	試掘	65.5	KYM202404
水中遺跡分布調査	佐世保市、島原市、南島原市、平戸市、南島原市	県(埋文)	2024/4/1	2025/3/31	-	分布調査	-	UWS202405
笠山遺跡(仮)	島原市	県(埋文)	2024/7/5	2024/8/6	道路	試掘	34.0	RSY202406
少式資時の墓周近遺跡(仮)	苓岐市	県(埋文)	2024/7/22	2024/8/9	保存目的	試掘	32.0	SSH202407
弘安の役瀬戸藩古戦場(隣接地)	苓岐市	県(埋文)	2024/7/22	2024/8/9	保存目的	試掘	30.0	SUK202408
神田原遺跡	島原市	県(埋文)	2024/9/26	2024/11/28	道路	本調査	261.7	HDR202409
京ノ坪遺跡	雲仙市	県(埋文)	2024/8/26	2024/9/13	道路	概観	23.5	KNT202410
瀬ノ辺遺跡	雲仙市	県(埋文)	2024/11/7	2025/1/6	道路	本調査	168.0	TNS202411
下南松木遺跡(隣接地)	島原市	県(埋文)	2024/10/8	2024/10/31	道路	試掘	11.6	SAT202412
上松高野遺跡(隣接地)	島原市	県(埋文)	2024/10/8	2024/10/31	道路	試掘	4.0	KMG202413
安国寺前遺跡(隣接地)	苓岐市	県(埋文)	2024/10/15	2024/11/22	保存目的	試掘	150.0	AKJ202414
間瀬遺跡(隣接地)	苓岐市	県(埋文)	2024/10/25	2024/11/22	保存目的	試掘	25.0	MYK202415

令和6年度 長崎県における発掘調査の履歴(2)

遺跡名	遺跡所在地	調査主体	調査開始日	調査終了日	調査原因	調査種別	調査面積 [㎡]	備考
長崎西役所跡	長崎市	県(埋文)	2024/11/22	2024/12/30	その他開発	調査	68.0	NNY202416
神ノ前遺跡(仮)	雲仙市	県(埋文)	2024/12/9	2025/1/6	道路	試掘	16.0	KNM202417
戸切遺跡(仮)	島原市	県(埋文)	2025/1/16	2025/1/31	道路	試掘	8.0	TGR202418
新高野遺跡(仮)	島原市	県(埋文)	2025/1/16	2025/1/31	道路	試掘	16.0	SNG202419
新高野遺跡(仮)	島原市	県(埋文)	2025/3/3	2025/3/14	道路	試掘	33.0	SNG202420
稲町遺跡	長崎市	長崎市	2024/5/7	2024/5/24	その他開発	調査	12.0	
唐人屋敷跡	長崎市	長崎市	2024/6/10	2024/6/17	道路	本調査	15.0	
長崎県庁跡(長崎県庁舎本館跡)	長崎市	長崎市	2025/1/14	2025/2/28	保存目的	調査	15.0	
倉ノ百遺跡	佐世保市	民間調査組織等	2024/7/30	2024/8/1	ガス・電気・水道等	試掘	4.9	
源成遺跡	佐世保市	民間調査組織等	2024/7/31	2024/8/6	ガス・電気・水道等	試掘	9.9	
源成遺跡	佐世保市	民間調査組織等	2024/8/1	2024/8/6	ガス・電気・水道等	試掘	9.4	
福成遺跡	佐世保市	民間調査組織等	2024/8/6	2024/8/7	その他開発	試掘	9.0	
城ヶ岳千子遺跡	佐世保市	民間調査組織等	2024/8/22	2024/8/28	その他開発	試掘	25.2	
城ヶ岳千子遺跡	佐世保市	民間調査組織等	2024/8/29	2024/9/4	その他開発	試掘	25.2	
佐世保留守府倉庫跡	佐世保市	佐世保市	2025/1/28	2025/3/3	その他開発	本調査	147.0	
定和神社遺跡	佐世保市	佐世保市	2025/3/3	2025/3/10	その他開発	調査	4.8	
柳ノ人遺跡	佐世保市	民間調査組織等	2025/3/10	2025/3/17	その他開発	試掘	84.5	
辻田池遺跡(隣接地)	佐世保市	佐世保市	2024/9/2	2024/9/10	その他開発	試掘	13.0	
吉野宮池遺跡(隣接地)	佐世保市	佐世保市	2024/11/25	2024/12/5	その他開発	試掘	4.0	
満楽城遺跡(隣接地)	佐世保市	佐世保市	2024/10/17	2024/10/28	その他開発	試掘	20.0	
新田村地下遺跡	佐世保市	佐世保市	2025/1/7	2025/1/9	個人住宅	試掘	12.0	
下宮遺跡	島原市	島原市	2024/6/21	2024/7/16	その他建物	調査	12.1	
小原下遺跡	島原市	島原市	2024/7/23	2024/8/7	個人住宅	調査	3.0	
下原原高遺跡	諫早市	諫早市	2024/12/25	2025/2/14	その他建物	調査	4.0	
小野寺里遺跡	諫早市	諫早市	2024/10/11	2024/12/13	宅地造成	調査	4.0	
原ノ尾遺跡	諫早市	諫早市	2024/8/6	2025/2/20	農業基盤整備事業(農道等を含む)	調査	4.0	
黒丸遺跡	大村市	大村市	2024/4/22	2024/4/23	宅地造成	試掘	16.0	
平野遺跡	大村市	大村市	2024/5/20	2024/5/22	宅地造成	試掘	43.0	
小松古遺跡	大村市	大村市	2024/5/20	2024/5/21	宅地造成	試掘	10.5	
小松古遺跡	大村市	大村市	2024/5/29	2024/5/30	宅地造成	試掘	36.0	
宮の原遺跡	大村市	大村市	2024/6/12	2024/6/21	その他開発	試掘	90.0	
本場A遺跡	大村市	大村市	2024/7/29	2024/7/29	個人住宅	試掘	4.0	
立小路遺跡	大村市	大村市	2024/8/19	2024/9/2	店舗	試掘	30.0	
三城城下跡	大村市	大村市	2024/9/24	2024/9/27	宅地造成	試掘	30.0	
三城城下跡	大村市	大村市	2024/10/8	2024/10/11	宅地造成	試掘	30.0	
聖宝寺跡	大村市	大村市	2024/10/15	2024/10/17	住宅	試掘	28.5	
宮の原遺跡	大村市	大村市	2024/10/28	2024/11/6	その他建物	試掘	75.0	
三城城下跡	大村市	大村市	2024/11/18	2024/11/20	住宅	試掘	10.0	
丸島城跡	大村市	大村市	2024/12/16	2024/12/19	その他開発	試掘	30.0	
冷泉遺跡	大村市	大村市	2024/12/2	2024/12/17	宅地造成	試掘	76.5	
春日遺跡	大村市	大村市	2025/1/15	2025/2/14	宅地造成	試掘	109.0	
考古遺跡	大村市	大村市	2025/3/12	2025/3/19	住宅	試掘	20.0	
宮の原遺跡	大村市	大村市	2025/2/26	2025/3/7	宅地造成	試掘	96.0	
亀岡遺跡	平戸市	平戸市	2024/9/19	2024/9/28	その他開発	調査	10.0	
千賀ヶ丘遺跡	平戸市	平戸市	2024/11/25	2024/12/5	その他開発	調査	20.0	
里田遺跡	平戸市	平戸市	2024/4/18	2024/4/26	店舗	調査	4.0	
中ノ郷遺跡	松浦市	松浦市	2024/4/1	2024/5/31	道路	本調査	520.0	
鹿島原底遺跡	松浦市	松浦市	2024/10/1	2024/10/10	保存目的	調査	18.0	
原の上遺跡	壱岐市	壱岐市	2024/4/22	2024/5/31	その他開発	本調査	140.0	
車出遺跡群	壱岐市	壱岐市	2024/6/1	2024/8/31	その他開発	調査	150.0	
原の上遺跡	壱岐市	壱岐市	2024/7/22	2024/8/30	その他開発	本調査	35.0	
原の上遺跡(隣接地)	壱岐市	壱岐市	2024/8/1	2024/8/3	道路	本調査	18.0	
神田田遺跡	壱岐市	壱岐市	2024/10/15	2024/11/25	その他開発	本調査	14.0	
車出遺跡群	壱岐市	壱岐市	2024/9/2	2024/11/30	その他開発	調査	75.0	
車出遺跡群(田地区(隣接地))	壱岐市	壱岐市	2024/12/16	2024/12/20	その他開発	本調査	6.0	
百合園14号墳	壱岐市	壱岐市	2025/1/14	2025/3/18	学術調査	調査	51.5	
原の上遺跡	壱岐市	壱岐市	2025/1/20	2025/1/23	個人住宅	試掘	10.0	
八木本宮跡	五島市	長崎大学	2024/8/16	2024/10/30	学術調査	調査	20.0	
横瀬浦史跡公園(未開掘)	西海市	江戸川大学	2024/8/26	2024/9/2	学術調査	試掘	4.0	
横瀬浦史跡公園(未開掘)	西海市	江戸川大学	2024/11/21	2024/11/24	学術調査	試掘	4.0	
魚見川田遺跡(隣接地)	雲仙市	雲仙市	2024/5/21	2024/6/3	農業基盤整備事業(農道等を含む)	調査	2.0	
荒牧地登地区	雲仙市	雲仙市	2024/5/20	2025/3/21	農業基盤整備事業(農道等を含む)	調査	8.0	
城域遺跡(隣接地)	雲仙市	雲仙市	2024/6/6	2024/6/21	農業基盤整備事業(農道等を含む)	調査	4.0	
野井山尻遺跡	雲仙市	雲仙市	2024/5/9	2024/10/31	農業基盤整備事業(農道等を含む)	本調査	1880.0	
倉ノ下遺跡	雲仙市	雲仙市	2024/11/13	2025/3/31	農業基盤整備事業(農道等を含む)	本調査	137.0	
中瀬遺跡	雲仙市	雲仙市	2024/5/13	2024/6/7	道路	調査	8.0	
真直寺寺里跡	雲仙市	雲仙市	2024/7/4	2024/7/9	その他建物	調査	4.0	
伊古遺跡	雲仙市	雲仙市	2024/9/5	2024/9/6	その他開発	調査	24.0	
茂道跡A	雲仙市	雲仙市	2024/7/3	2024/8/23	個人住宅	調査	18.0	
真直寺寺里跡	雲仙市	雲仙市	2025/1/15	2025/1/20	その他建物	調査	2.0	
茂道跡A	雲仙市	雲仙市	2025/1/23	2025/1/28	個人住宅	調査	3.0	
八石碁石塚	南島原市	南島原市	2024/6/3	2024/6/10	農業基盤整備事業(農道等を含む)	調査	12.0	
摩現跡遺跡	南島原市	南島原市	2024/6/21	2024/11/30	河川	本調査	378.0	
摩現跡遺跡	南島原市	南島原市	2024/10/21	2024/10/28	河川	調査	12.0	
上観馬場遺跡	南島原市	南島原市	2024/9/25	2025/3/25	農業基盤整備事業(農道等を含む)	本調査	603.0	

令和6年度 長崎県における発掘調査の履歴 (3)

遺跡名	遺跡所在地	調査主体	調査開始日	調査終了日	調査原因	調査種別	調査面積 (㎡)	備考
水打場遺跡	南島原市	南島原市	2024/4/19	2025/3/25	農業振興整備事業（農道等を含む）	本調査	2251.0	
長与福山遺跡（隣接地）	長与町	長与町	2023/10/20	2024/6/4	住宅	試験	164.3	
田平戸塚所役所跡	小値賀町	小値賀町	2024/12/4	2024/12/27	保存目的	発掘	16.0	
上石川土地改良区	新上五島町	新上五島町	2024/5/8	2024/5/17	農業振興整備事業（農道等を含む）	試験	46.5	

令和6年度 県及び市町村教委発行の埋蔵文化財発掘調査報告書等一覧

編集機関	報告書名	収録遺跡	シリーズ名	集数
長崎県 埋蔵文化財センター	長崎県埋蔵文化財調査年報32 ～令和5年度調査分～	相津遺跡、祝言島遺跡（隣接地）、早岐瀬戸遺跡、北ノ園遺跡、下原第1遺跡（仮）、下原第2遺跡（仮）、櫻根第1遺跡（仮）、櫻根第2遺跡（仮）、文木の役所城古戦場（確認遺跡）、上原遺跡、文木の役所人馬古戦場（仮）、ヌルヘノクチ遺跡、神田原遺跡、関線遺跡、上熊崎遺跡、上原遺跡、平野系野遺跡（仮）、樋ノ迫遺跡、追遺跡（仮）、外志エ門系野遺跡（仮）、長崎佐遺跡（仮）、金子遺跡、乙宮遺跡（隣接地）、灰ノ久保遺跡	長崎県埋蔵文化財センター 調査報告書	51
	上岡遺跡・上熊崎遺跡 ～一般国道251号道路改良工事（埋蔵古妻バイパス）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ～	上岡遺跡、上熊崎遺跡		52
	北ノ園遺跡 ～一般国道251号道路改良工事（埋蔵古妻バイパス）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ～	北ノ園遺跡		53
	関線遺跡・ヌルヘノクチ遺跡・相津遺跡 ～「しほの遺跡の魅力」探求事業発掘調査報告書～	関線遺跡、ヌルヘノクチ遺跡、相津遺跡		54
長崎市教育委員会	桜町遺跡 ～新市庁舎周辺道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書～	桜町遺跡	—	
島原市教育委員会	長崎県指定史跡島原城跡総合調査報告書	島原城跡	島原市文化財調査報告書	23
平戸市教育委員会	市内遺跡確認調査報告書	里田原遺跡、亀岡城跡、千里ヶ浜遺跡	平戸市の文化財	80
松浦市教育委員会	中ノ瀬遺跡 ～市道中ノ瀬線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書～	中ノ瀬遺跡	松浦市文化財調査報告書	14
	松浦市鷹島海底遺跡 ～令和5～6年度発掘調査概報～	鷹島海底遺跡		15
雲仙市教育委員会	守山大塚古墳Ⅱ	守山大塚古墳	雲仙市文化財調査報告書	21
小値賀町教育委員会	平戸藩押役所跡	平戸藩押役所跡	小値賀町文化財調査報告書	26

II. 本県が主催する文化財保護に関する研修事業

1. 長崎県文化財保護行政主管課長会議・担当者会議

目 的 県及び市町文化財保護行政主管課長及び担当者に対し、文化財保護及び活用に関する新たな情報や専門的知識を習得する場を提供するとともに、県や市町の取組に関する現状と課題についての情報共有を行い、文化財保護行政の円滑な推進を図る。

期 日 令和6年7月8日（月）

会 場 長崎県庁3階 313・314会議室

参加者 各市町文化財保護主管課長及び担当者 計49名

内 容

- (1) 開会・学芸文化課長あいさつ
- (2) 報告・説明等
 - ・埋蔵文化財の届出通知について（埋蔵文化財センター 調査課 宮武直人）
 - ・文化財関係補助制度について（学芸文化課 文化財班 浦友香梨）
 - ・史跡等の保護の適正化及び補助事業の適正な実施について（学芸文化課 文化財班 中野真澄）
 - ・地域計画について（学芸文化課 文化財班 中尾篤志）
 - ・財団助成金（メセナ）及び表彰について（学芸文化課 総務管理班 福田萌美）
 - ・国民文化祭について（学芸文化課 企画監 鬼塚晃嗣）
- (4) 協議・照会
- (5) その他
- (6) 閉会

2. 開発部局・文化財保護部局担当者埋蔵文化財基礎研修

目 的 (1) 開発部局担当者の埋蔵文化財に対する保護意識の醸成を図り、その取扱について理解を深めることで、埋蔵文化財保護行政を円滑に推進する。
(2) 文化財主管課担当者に埋蔵文化財に係る基礎的な知識を習得する場を提供し、その保護に関する基本的な考え方や事務手続きなどへの理解を深める機会とする。

期 日 令和6年6月6日（木）～7日（金）

会 場 長崎県立長崎図書館郷土資料センター研修室

参加者 国・県及び市町開発部局担当者、県及び市町文化財担当者 合計78名

内 容

- (1) 挨拶
- (2) 埋蔵文化財基礎研修
 - ①長崎県の埋蔵文化財とその保護制度（長崎県埋蔵文化財センター 松元一浩）
 - ②埋蔵文化財関係の届出・通知について（長崎県埋蔵文化財センター 宮武直人）
 - ③事例報告Ⅰ「島原道路建設に伴う発掘調査」（長崎県埋蔵文化財センター 前田加美）
 - ④事例報告Ⅱ「国史跡原城跡の発掘調査」（南島原市教育委員会文化財課 伊藤健司）

質疑応答・事務連絡

(3) 埋蔵文化財担当者研修

- ①「埋蔵文化財保護行政の現状と課題」(文化庁文化財第二課 桑波田武志)

質疑応答

- ②報告「対馬市越高遺跡の総括調査報告書」(対馬市教育委員会文化財課 森悠統)

質疑応答・事務連絡

3. 埋蔵文化財担当者専門技術研修

目 的 県内市町の埋蔵文化財専門職員及び埋蔵文化財保護業務を担当する職員等を対象として、埋蔵文化財保護行政を円滑に遂行するために必要な知識の修得を図る。

日 時 令和7年3月3日(月)

会 場 小長井文化ホール会議室

参加者 県及び市町文化財担当者 合計14名

内 容

(1) 開会挨拶

(2) 専門技術研修

- ①講義「水中遺跡分布調査事業の概要」(長崎県埋蔵文化財センター 宮武直人)
②見学「小長井ホール郷土資料室」(長崎県埋蔵文化財センター 新井実和)
③実習「潮間帯遺跡の陸上踏査」(長崎県埋蔵文化財センター 宮武直人)



講義風景



実習風景

Ⅲ、長崎県埋蔵文化財センターの事業

1. 東アジア考古学研究事業

(1) 発掘調査事業

長崎県埋蔵文化財センターでは、原の辻遺跡調査研究事業として遺跡内の環濠や旧地形等の状況調査を目的に平成14年度から国庫補助を受けながら範囲確認調査を実施している。令和4年度からは、遺跡の北側から南側にかけての遺跡の広がりや遺構の状況を確認するための5年計画を実施中であり、またこの5年計画と並行して、令和4年度から令和6年度までの3年間の事業として、「しらの遺跡の魅力」探求事業を行った。これは「埋蔵文化財を活用した壱岐・対馬・五島地域の活性化」と「郷土を愛する人材の育成」を目的とするもので、壱岐に加え、対馬地域と五島地域においても発掘調査を実施してきた。

調査の概要については、Ⅳ章以下を参照されたいが、令和6年度は壱岐において調査を実施した。

壱岐地域 場所：安国寺前遺跡（原の辻遺跡）（隣接地）

期間：10月15日から11月22日にかけて実施

成果：谷状地形の発見と、その上流での人間活動の時期幅の把握

場所：間瀬遺跡（原の辻遺跡）（隣接地）

期間：10月25日から11月22日にかけて実施

成果：旧地形と調査地周辺の様相を考える情報の蓄積

(2) 長崎県高校生遺跡フォーラム・「しらの遺跡の魅力」探求事業成果展の開催

東アジア考古学研究室は本県が古代から東アジア交流の要衝として独特の文化を育んできた歴史的経緯を踏まえ、令和4年度から令和6年度まで「しらの遺跡の魅力」探求事業を実施した。本事業では、本県の離島地域における大陸と本土との交流を示す埋蔵文化財の調査研究・情報発信を行うとともに、それらのしらの遺跡を次世代に継承するために高校への授業支援や高校生の研究活動への協力を行ってきた。令和6年度は事業の総括として、支援を行った県内の高校を中心に高校生の研究・活動の成果発表を行う「長崎県高校生遺跡フォーラム」と、3年間の事業の成果を紹介する成果展を実施した。

○主催 長崎県埋蔵文化財センター

○後援 釜山博物館、長崎県教育委員会、魏志倭人伝のクニグニネットワーク参加自治体・教育委員会、長崎新聞社、西日本新聞社、朝日新聞社、毎日新聞社、読売新聞西部本社、NHK長崎放送局、NBC長崎放送、KTNテレビ長崎、NCC長崎文化放送、NIB長崎国際テレビ

<長崎県高校生遺跡フォーラム>

○日時 令和6年12月22日（日）10:00～15:00

○場所 長崎県庁 大会議室

○参加者 100名

○内容

基調講演 「わたしの考古学履歴～「考古学は地域に勇気を与える」事例紹介」

関西外国語大学教授 佐古和枝

研究発表 「興原古墳の石材運搬に関する研究ー古墳時代社会解明への道しるべー」

長崎県立苓岐高等学校東アジア歴史・中国語コース 歴史学専攻生

「西ノ股遺跡から発掘された黒曜石の分析」

長崎県立上五島高等学校

「深堀出土貝輪に基づく調査、貝輪製作実験報告」

長崎県立長崎東高等学校 郷土研究部

「中世長与氏の様相と大村氏との関係性〜城館と文献史料からの一考察〜」

長崎南山高等学校

「最後の最新を後世へ from 池島」

佐世保工業高等専門学校

「九州型石鍾と伊都国の漁業文化」

福岡県立糸島高等学校 歴史部

討 論 コーディネーター 関西外国語大学教授 佐古和枝

長崎県埋蔵文化財センター所長 寺田正剛

パネリスト

発表校代表者

<成果展>

○期 間 令和6年12月14日(土)～令和6年12月22日(日)

○場 所 長崎県庁 エントランスホール

○観覧者 319名



成果展会場



フォーラム(討論会)

(3) 東アジア諸国の研究機関との連携



一支国博物館特別講座 研究成果発表

長崎県埋蔵文化財センターは、平成27年5月に韓国・釜山博物館と友好交流機関協定を締結して以来、相互に職員を派遣し、発掘調査への参加や共同で資料調査を行うなどの学術交流を実施している。長崎県と釜山市では相互に関連のある考古資料が出土しているが、日韓の研究者双方の目で、同時に検討することで、海を介した交流の実態が明らかになってきた。また、中国東北地方(主

に遼寧省・吉林省)を中心とした研究機関とも連携を深めている。令和6年度には、韓半島南部で出土する「タビ」と呼ばれる鉄製の踏み鋤(地面に踏みこんで掘り返す道具)をテーマとして共同研究を実施することとし、その成果は、釜山博物館および長崎県埋蔵文化財センターの双方が刊行する研究紀要に掲載されている。またその研究成果は、令和7年1月12日に一支国博物館の特別講座において公開された。

○合同発掘調査の実施

新型コロナウイルス感染拡大に伴う規制が緩和されたことを受けて、令和4年度から、両機関の職員が互いの発掘現場を訪問し、技術交流と意見交換を行う合同発掘調査を実施している。令和6年度には9月7日から15日にかけて、昨年度に引き続き韓国釜山古村里(こそんり)古墳群の発掘調査に東アジア考古学研究室職員1名が参加した。また釜山博物館からは、11月16日から26日にかけて、苓岐市原の辻遺跡(安国寺前遺跡(隣接地))の発掘調査に学芸研究士1名が参加した。この合同調査期間では、発掘現場において遺構や遺物に関する検討を行うことができたほか、今後の共同研究をさらに深化させるために県外のシンポジウムに参加することができ、双方にとって大変有益な学びの機会となった。



古村里古墳群における合同発掘調査風景



福泉洞博物館における資料調査実施風景

(4) 長崎県埋蔵文化財センター研究紀要第15号の刊行

本センターの研究紀要は、開所以来毎年刊行を重ねている。第15号では次の3本の論考を掲載した。

[内容]

隈田 祥光・坂本 桜・川道 寛・片多 雅樹・柳田 裕三・川内野 篤

「佐世保市無窮洞周辺と川棚町大崎半島の火砕岩に含まれる黒曜石礫の化学組成と原産地判別図の更新」

中尾 篤志「長崎市出津遺跡出土のゴホウラ製貝輪」

申 東昭・山梨 千晶「日本 苓岐島 カラカミ遺跡出土タビ形鉄器の検討」

2. 保存処理事業

令和6年度は長崎県保有資料685点、県内市町保有資料188点の総計873点に関して保存処理を実施した。県保有資料のうち木製品421点と金属製品188点の計609点に関しては、国庫補助事業を活用して保存処理を行った。木製品はPEG含浸処理法及びトレハロース含浸処理法により保存処理を実施した。金属製品は主に鉄製品と銅製品に大別されるが、いずれも透過X線撮影等事前調査を実施したのち、錆取り作業⇒脱塩処理(銅製品はBTA(ベンゾ・トリ・アゾール)処理)⇒アクリル樹脂含浸

強化処理⇒接合・修復を実施した。その他、脆弱な土器や動植物遺体は水で希釈できるエマルジョン系アクリル樹脂を含浸し、接合できる状態に強化した。

また、当該年度に処理した銅製品の中には、保存処理の過程で県内初出土となる「豊後産メダイ」であることが判明した資料があり、令和7年(2025年)5月には報道発表を実施した。

令和6年度 長崎県保有資料保存処理一覧(※は国庫補助事業)

◆木製品：421点

遺 跡 名	所在地	遺跡番号	処理点数	処理方法	備 考
早岐瀬戸遺跡	佐世保市	201906※	18	PEG含浸処理	令和元年度調査
		202005※	401		令和2年度調査
佐世保要塞砲兵連隊衛戍病院跡		202014※	2		

◆金属製品：198点

遺 跡 名	所在地	遺跡番号	処理点数	処理内容	備 考
早岐瀬戸遺跡	佐世保市	202005※	188	錆取り・クリーニング ↓ 脱塩・BTA処理 ↓ アクリル樹脂 (ハロライトNAD10等) 含浸強化処理	令和2年度調査
上岡遺跡	島原市	202310	2		令和5年度調査
上熊崎遺跡	新上五島町	202319	1		
乙宮遺跡(隣接地)	小値賀町	202325	1		
清水山遺跡(隣接地)	対馬市	202404	6		令和6年度調査

◆その他の材質(土器・瓦)：66点

遺 跡 名	所在地	遺跡番号	処理点数	処理方法	備 考
倉子遺跡	島原市	202402	65	アクリル樹脂 (バインダー17) 含浸強化処理	令和6年度調査
長崎奉行所跡	長崎市	NK183	1	アクリル樹脂強化⇒接合	平成16年度調査

総計：685点

HAS202005-33071



処理前写真

レントゲン写真(正面・側面)

顕微鏡写真(穿孔部)

処理後写真(A面・B面)

早岐瀬戸遺跡出土「豊後産メダイ」の保存処理例

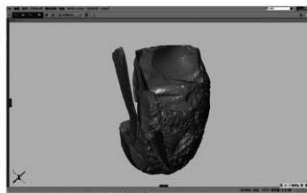
令和6年度 県内市町保存処理点数一覧

遺跡名	市町名	利用機関	点数	種別	備 考
魚の町遺跡	長崎市	長崎市文化財課	1	木製品	トレハロース
			3	金属製品	錆取り⇒樹脂含浸
出島と蘭商館跡		出島復元整備室	14	木製品	トレハロース
佐世保要塞砲兵連隊跡	佐世保市	佐世保市文化財課	3	金属製品	錆取り⇒樹脂含浸
小手田遺跡	平戸市	文化交流課	1	木製品	PEG含浸処理
車出遺跡、国柳遺跡、 串山ミルメ浦遺跡	杵岐市	杵岐市社会教育課	86	金属製品	錆取り⇒樹脂含浸
内屋敷遺跡	雲仙市	雲仙市教育委員会	3	金属製品	錆取り⇒樹脂含浸
野井山尻遺跡			76	土器	アクリル樹脂含浸
ハマンナ海岸	新上五島町	新上五島町教育委員会	1	木製品	トレハロース

総計：188点

出土遺物の保存処理に伴う事前調査機器（精密分析機器）も保有し、金属製品の材質分析や構造調査等も行っている。石器接合資料の三次元計測を実施し展示等にも活用した。

また、規定に基づき外部利用も受け入れており、令和6年度は7機関による利用があった。特に黒曜石の産地推定に伴う蛍光X線分析依頼が多く、県内のみならず他県からの利用もあり、古代の流通等の解明に貢献している。



石器接合資料の三次元計測

令和6年度 精密分析機器外部利用一覧

利用時期	利用者	利用内容	主な使用機器
2024年4月	雲仙市教育委員会	装身具類の非破壊調査	蛍光X線分析装置、電子天秤
2024年7月	西海市教育委員会	黒曜石の産地推定	蛍光X線分析装置
2024年7月	雲仙市教育委員会	黒曜石の産地推定	蛍光X線分析装置
2024年8月	沖縄県立博物館・美術館	黒曜石の産地推定	蛍光X線分析装置
2024年8月	鎮西学院大学	黒曜石の産地推定	蛍光X線分析装置
2024年9月	西海市教育委員会	黒曜石の産地推定	蛍光X線分析装置
2025年1月	雲仙市教育委員会	黒曜石の産地推定	蛍光X線分析装置
2025年1月	唐津市教育委員会	石仏群彩色材料分析	携帯型蛍光X線分析装置
2025年3月	新上五島町教育委員会	金属製品の非破壊調査	透過X線撮影装置・蛍光X線分析装置
2025年3月	佐世保市教育委員会	黒曜石の産地推定	蛍光X線分析装置

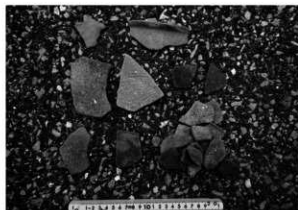
3. 水中文化遺産保存活用推進事業

(1) 県内水中遺跡分布調査

県内全域を対象にした水中遺跡の分布調査事業は、今年度で4年目を迎える。令和6年度は、佐世保市針尾中町小鯛浦、平戸市志々伎町志々伎湾、同市大島村的山湾の3地区で潜水調査等を行った。また、令和6年度下半期は、有明海沿岸の陸上踏査を行った。調査箇所は、島原市13か所、諫早市20か所、雲仙市21か所、南島原市31か所、合計85か所である。



佐世保市小鯛浦海底で発見した近世陶磁器碗



南島原市大江浜海岸で採集した土器類

潜水調査及び陸上踏査いずれについても、遺物の採集は表面採集のみとし、必要に応じて写真撮影とハンディGPSによる位置情報の取得を行った。

調査結果は、IV、令和6年度長崎県教育委員会による埋蔵文化財発掘調査の概要を参照されたい。

(2) 普及啓発など

令和6年度は、前年度まで行っていた「わくわく!! 水中考古学体験講座」が終期を迎えたことから、元寇関連・保存活用事業のシンポジウムや調査報告会のなかで、調査成果の一部を紹介している。その概要は、4、元寇関連・保存活用事業を参照されたい。

4. 元寇関連保存・活用事業

学芸文化課では、元寇750周年にあわせて令和5年度より3か年の予定で、元寇関連保存・活用事業を開始した。2年目となる令和6年度は、弘安の役の際の激戦地とされる老岐の発掘調査と、松浦市鷹島沖に集結した元の軍船のうち、慶元（寧波）から侵攻した江南軍の航路について、関連諸学の専門家を交えてシンポジウムを開催し、検討を行った。

(1) 発掘調査

令和6年度は老岐において、7月22日から8月9日の3週間、弘安の役における老岐島内の激戦地である「弘安の役瀬戸浦古戦場（隣接地）」（地点①）と、「少貳資時の墓周辺遺跡（仮称）」（地点②）、で発掘調査を実施した。各地点の調査成果については、「IV章：埋蔵文化財発掘調査の概要」において詳述する。

老岐での調査は令和5年度に引き続き2回目で、今回は2地点の調査により元寇（弘安の役）の痕跡の発見を目指したが発見には至らなかった。この要因として、丘陵部において削平が進んでいたことが挙げられるが、こうした状況は老岐島を含めた多くの島嶼部に当てはまるものと考えられる。しかしながら、地道ではあるが、発掘調査により地下に眠る情報を集め、元寇の実態解明にむけて可能性を絞り込むことには成功したものと考えている。また、削平を免れ元寇の痕跡が良好に残存する場所もどこかにはあるものと期待したい。

(2) シンポジウム

シンポジウムは、「モンゴル襲来」と海の路～元の軍船の航路を探る～と題して、九州国立博物館及び平戸市たびら活性化施設の2か所で開催した。

主 催 長崎県教育委員会

共 催 老岐市教育委員会・対馬市教育委員会・

松浦市教育委員会

①九州国立博物館ミュージアムホール

日 時 令和6年11月4日（月・振休）

13:30～16:00

主 催 長崎県教育委員会

共 催 九州国立博物館

【調査研究報告】

「モンゴル襲来と大洋路」伊藤幸司（九州大学）



シンポジウム（九州国立博物館）

「モンゴル襲来と碇石」 高津孝（放送大学鹿児島学習センター）

「モンゴル襲来と長崎県」 宮武直人（長崎県埋蔵文化財センター）

【討論】テーマ：元の軍船の航路を探る

（パネラー）高津孝・伊藤幸司・宮武直人 司会：川口洋平（学芸文化課）

参加者 120名

②平戸市たびら活性化施設ホール

日 時 令和7年2月15日（土）13:30～16:00

主 催 長崎県教育委員会

共 催 平戸市

後 援 松浦市教育委員会

【基調講演】

「モンゴル襲来」と海の路 服部英雄（九州大学名誉教授）

【調査研究報告】

「モンゴル襲来と碇石」 高津孝（放送大学鹿児島学習センター）

「鷹島から発掘された元軍の沈没船」 内野義（松浦市教育委員会）

「モンゴル襲来と長崎県」 宮武直人（長崎県埋蔵文化財センター）

【討論】テーマ：元の軍船の航路を探る

（パネラー）服部英雄・高津孝・宮武直人 司会：川口洋平（学芸文化課）

参加者 80名



シンポジウム（平戸市）

二つのシンポジウムを通じて、文献史や碇石、水中遺跡などの状況から、慶元（寧波）を発した江南軍は済州島の島影を左手に見ながら東シナ海を横断して五島列島に向かい、さらに平戸にかけては特徴的な島影や山影などをランドマークとしながら北上し、かつて貿易航路として使われていた港を経由しながら、鷹島沖へ向かったと推測された。

5. 教育普及事業

（1）オープン収蔵展示

調査研究の成果を紹介するため、併設する杵岐市立一支国博物館のオープン収蔵庫（高さ5mのガラス張り、キッズこうこくが研究所および博物館2階より内部を見ることができる収蔵庫）を活用して、遺物の展示を行っている。令和6年度は以下の3つのテーマで遺物展示を行った。

第1回目『モンゴル襲来～杵岐・対馬とその時代～』では、元寇伝承地における最新の発掘調査成果や、鷹島海底遺跡引き揚げ遺物とともに、杵岐・対馬における「モンゴル襲来」とその時代について紹介した。第2回目『令和6年度 長崎県埋文-MAIBUN-調査速報展』では、近年当センターが行った発掘調査、水中分布調査、保存処理等の「最新成果」から、調査担当者のイチオシを紹介した。第3回目『「し島の遺跡の魅力」探求事業成果展～海を渡った人々の暮らし～』では、長崎県埋蔵文化財センターが令和4年度から行ってきた「し島の遺跡の魅力」探求事業の発掘調査や普及啓発事業の成果について紹介した。

令和6年度 オープン収蔵展示

テーマ	主な展示品	期間
モンゴル襲来 -巻岐・対馬とその時代-	鹿島海底遺跡(松浦市)出土遺物、佐須浦古戦場跡(対馬市)出土遺物、定光寺前遺跡、観城跡(巻岐市)出土遺物ほか	令和6年6月28日(金) ~ 令和6年10月20日(日)
令和6年度 長崎県埋文-MAIBUN-調査速報展	早岐瀬戸遺跡(佐世保市)中近世出土遺物、県内水中遺跡採集遺物、寺中A遺跡(島原市)出土縄文土器 ほか	令和6年10月25日(金) ~ 令和7年3月2日(日)
「しまの遺跡の魅力」探求事業成果展 -海を渡った人々の暮らし-	関縁遺跡(巻岐市)出土遺物、ヌルヘノクチ遺跡(対馬市)出土遺物、相津遺跡(小値賀町)出土遺物ほか	令和7年3月7日(金) ~ 令和7年6月22日(日)



モンゴル襲来 -巻岐・対馬とその時代-



令和6年度 長崎県埋文-MAIBUN-調査速報展

(2) 情報誌

一般向けPDF情報誌として『南北市鑑』第19号をHPで配信した。この情報誌では、前年度(令和5年度)のセンター情報をわかりやすくまとめた記事を掲載している。

(3) ホームページおよびFacebookの公開更新

ホームページ(<http://www.nagasaki-maibun.jp/>)には『施設案内』、収蔵する出土品や精密分析機器の『施設利用』に関する申請書を掲載しているほか、近年の発掘調査状況を掲載している『センター発掘情報』、オープン収蔵展示や教育支援事業などを紹介する『インフォメーション』、刊行物を紹介する『出版物情報』、バックヤードツアーなどイベントを紹介する『イベント情報』などを掲載している。また、平成26年から開設しているFacebookページ(<http://fb.com/1461241530809034>)で多くの写真を用いて親しみやすい情報の発信に取り組んでいる。

(4) 体験学習

令和5年度より『まいぶん子ども教室』と題し、主に小学生を対象とした体験学習を夏休み期間中に開催している。縄文土器の施文具を使用したコースター製作や拓本、精密分析機器を使った体験など、子どもたちに分かりやすく興味を示すようなアイデアを盛り込んだ。また、普段から職員が作業している出土品整理作業室で開催することにより、センターの仕事内容や成果をより身近に



拓本体験

感じてもらえるようにした。令和6年度は5回の開催で計79名の参加があった。

(5) バックヤードツアー

埋蔵文化財センターに併設されている一支国博物館のイベントとして、毎月第3土曜日にバックヤードツアーを実施している。普段立ち入ることができないセンターの保存処理施設や出土品収蔵庫等を見学するツアーで、主にセンター職員が対応している。令和6年度は12回の開催で、計76名の参加があった。



バックヤードツアーの様子（木器保存処理室）

(6) 資料貸出・閲覧・掲載許可

収蔵している出土品等の貸出や資料閲覧、写真等掲載に関して、所定の申請を受け、使用目的等適切であれば許可している。令和6年度は出土品の資料貸出7件（九州国立博物館、杉並区立郷土博物館、佐世保市教育委員会、一支国博物館、長崎県文化振興・世界遺産課、ミュンヘン＝ルートヴィヒ・マクシミリアン大学獣医学部古遺伝学研究室）、資料閲覧7件、写真掲載許可申請8件に対応した。

(7) 長崎県立壱岐高等学校「東アジア歴史・中国語コース」支援

本センターでは、高校生の離島留学制度で設定された長崎県立壱岐高等学校東アジア歴史・中国語コースの授業支援を行っている。支援は1年生のコース生全員と、2年生の歴史学専攻生の授業の一部を担当しており、埋蔵文化財の公的な専門機関が年間を通して高校の授業を担当する例は全国でも稀である。

1 学校設定科目の授業に関すること

1年生				2年生				3年生			
月	日	授業名	担当者	実施場所	授業名	担当者	実施場所	授業名	担当者	実施場所	
4	17	水	博物館・センター見学	センター職員	センター						
4	24	水			考古学研究1	白石・山梨	センター				
5	22	水			考古学研究2	白石・山梨	センター				
6	12	水	壱岐の史跡（巡検）①	白石・山梨	島内	壱岐の史跡（巡検）①	白石・山梨	島内			
6	19	水			考古学研究3	白石・山梨	センター				
7	3	月			考古学研究4	寺田・山梨	センター				
7	8	月	事前指導	白石・山梨	壱岐高	事前指導	白石・山梨	壱岐高			
7	10	水			考古学研究5	白石・山梨	センター				
7	17	水			考古学研究6	白石・山梨	センター				
8	23	水			考古学研究7	白石・山梨	センター				
8	28	水			論文作成指導	白石・山梨	センター				
8	30	金			論文作成指導	白石・山梨	センター				
9	2	月			論文作成指導	白石・山梨	壱岐高				
9	3	火			論文作成指導	白石・山梨	壱岐高				
9	4	水			論文作成指導	白石・山梨	センター				
9	11	水	壱岐の史跡（巡検）②	寺田・山梨	島内	壱岐の史跡（巡検）②	寺田・山梨	島内			
10	30	水	原の辻遺跡発掘体験	白石・山梨	原の辻	原の辻遺跡発掘体験	白石・山梨	原の辻			
11	13	水			ポスター作成指導	白石・山梨	センター				
12	11	水	歴史学入門（整理作業1）	白石・山梨	センター						
1	22	水	歴史学入門（整理作業2）	白石・山梨	センター						

令和6年度は、1年生の「歴史学入門」を7回、2年生の「考古学研究」を17回実施し、特に2年生に対しては奈良大学と奈良県が主催している「歴史フォーラム」に研究論文を応募するための研究支援を中心に行った。研究支援は、1年次に論文のテーマ検討を先行して行い、2年次の9月まで通常の授業時間および放課後の時間帯に論文作成のための指導を行った。その結果、「興原古墳の石材運搬に関する研究—古墳時代社会解明への道しるべ—」を研究論文として提出し、上位5校の優秀賞を受賞し、さらに優秀賞受賞校のうち2校に贈られる学長賞・知事賞のうち、知事賞に選出された。



(8) 長崎県内の離島地域における高校生を中心とした授業支援

本センターでは、令和4年度より「しもの遺跡の魅力」探求事業を立ち上げ、埋蔵文化財を活用した杵岐・対馬・五島地域の活性化および郷土を愛する人材の育成を目的に活動を行っている。その一環として、これまで継続的に行っている長崎県立杵岐高等学校東アジア歴史・中国語コースの授業支援に加えて、対馬・五島地域における高校生への授業支援を行った。

令和6年度は、対馬高等学校1回、五島南高等学校1回、宇久高等学校1回で計3回の出前授業を実施した。また、長崎県高校生遺跡フォーラムに参加した上五島高等学校、長崎東高等学校、長崎南山高等学校について、オンライン等での研究支援を行っている。

No.	日付	高校名	対象	人数	形式	内容
1	12月10日(火)	対馬高等学校	3年生	15名	対面	対馬高等学校所蔵の埋蔵文化財について
2	12月13日(金)	五島南高等学校	3年生	23名	対面	埋蔵文化財について、五島市の遺跡
3	12月20日(木)	宇久高等学校	1年生	3名	対面	埋蔵文化財について



宇久高等学校



対馬高等学校

(9) 学校教育支援「埋文MAIBUN学びのサポート」

本センターは、「埋文MAIBUN学びのサポート」という学校教育支援を行っている。これは、センター職員の高い専門性や、石器・土器など実際の遺物、さまざまな機器を活用したセンターでの学習等を通して、考古学への児童生徒の興味・関心を高めるほか、幅広い知識や技能の習得をサポートすることを目的として実施している。令和6年度は5件で235人の利用があった。

（１０）現地説明会

安国寺前遺跡（隣接地）・関繰遺跡（隣接地）

11月16日（土）に安国寺前遺跡（隣接地）及び関繰遺跡（隣接地）において現地説明会を開催し、25名の参加を得た。調査地が現状の見た目と異なりもともとは深い谷地形であったことや、出土した弥生時代・古代・中世の遺物は、上流にどの時代の人々の活動があったかを知るための重要な手掛かりとなることについて説明したところ、参加者からは興味深そうな様子が見受けられた。



安国寺前遺跡（隣接地）における現地説明会風景

（１１）地元説明会

早岐瀬戸遺跡の発掘調査では、現地説明会に加え地域のイベント等に合わせた地元説明を令和4年度から実施している。

遺跡内で行われる早岐茶市への参加は3年目となり、令和6年6月1日（土）・2日（日）の2日間、会場中央の本部テント前を提供いただき説明ブースを設置した。早岐周辺の古写真や昭和・平成年間の茶市を映した写真のパネル展示と横並びで、早岐の歴史に浸ることのできる趣向となっていた。

発掘調査の途中成果をまとめたパネルと出土遺物の一部を展示し立ち寄る来場者に説明したほか、埋蔵文化財保護の解説パネルも並べ、発掘調査の意義や方法等の説明も行った。



説明ブース（早岐茶市）



説明ブース（早岐茶市）

IV. 令和6年度長崎県教育委員会による埋蔵文化財発掘調査の概要

1. 上大良遺跡^{かみだいら}【遺跡調査番号：202401】

所在地 雲仙市南串山町乙 686-1、686-2

調査原因 一般県道荒牧尾登線道路改良工事

調査期間 令和6年5月13日～令和6年5月20日

報告書 刊行予定なし

調査担当 長崎県埋蔵文化財センター

調査面積 6 m²

調査区分 範囲確認調査

処置 調査後工事

立地と環境

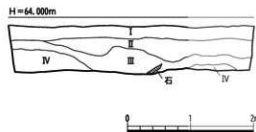
上大良遺跡は、雲仙市南串山町乙の標高約 65m 付近に位置する。急斜面地帯から緩斜面地帯へと切り替わる地形に所在しており、付近一帯は上大良地区と呼ばれる。遺跡の山手にあたる南側急斜面には天満宮が座しており、遺跡近くには地区センターがあるなど地域の中心的な土地利用がされている。遺跡範囲は現在、宅地・道路・畑・水田として利用されている。

また、遺跡に隣接する宅地や記念碑敷地内には、五輪塔の空風輪2点や宝篋印塔の相輪が祀っている。上大良遺跡と同時期である縄文時代のもので、海手に 300m 程度の地点に出原遺跡がある。



調査

道路施工予定地内に 1.5m × 4m の調査区を設定し、層位ごとに掘削した。層位はⅠ層からⅣ層まで確認した。Ⅰ層は耕作土で、厚さは 20 cm 程度であった。Ⅱ層は造成土で、最大 35 cm 程度堆積していた。Ⅲ層は風化した垂角礫を主体とする層で、Ⅳ層はしまりが強い褐色土で、風化した様々な色の小礫を含んでいた。



調査区北壁土層図 (S=1/60)

まとめ

遺構及び遺物は確認しなかった。道路の落ち跡である今回の調査地点周辺は大きく削平を受けているものと考えられ、表土・造成土撤去後は風化した礫が混入する非常に古い土層と考えられる層を確認した。

【調査担当：小川】（文責：前田）

2. 倉子遺跡^{くらこ}【遺跡調査番号：202402】

所在地 雲仙市吾妻町大木場名字倉子 839、840
調査原因 一般国道 251 号改良工事（瑞穂吾妻バイパス）
調査期間 令和6年5月13日～令和6年6月6日
報告書 令和7年度刊行予定

調査担当 長崎県埋蔵文化財センター
調査面積 240 m²
調査区分 本調査
処置 調査後工事

立地と環境

倉子遺跡は吾妻町中央よりやや東側、土井川（大木場川）と田川原川により形成された舌状台地の先端部に標高約 65m に位置する。遺跡の周辺は、2本の川により形成された扇状地に田園が展開され、宅地や牛舎が点在している。

倉子遺跡のある雲仙市吾妻町は南方方向の雲仙岳側に旧石器時代～縄文時代の遺跡が多く、北方向の有明海側には墳墓、古墳、条里跡、城跡などの弥生～中世、近世の遺跡が点在している。



調査地位置図

調査

調査区は、2枚の圃場で調査対象地の際から控えを取り、重機による表土掘削を行ったのち、5m単位のグリッドを設定し人力掘削を開始した。

遺構検出作業は縄文早期の遺物包含層である2層上面と包含層直下の3層上面で行った。遺物の取り上げはグリッド単位で行い、必要に応じて適宜写真撮影を行った。調査の終盤に土層実測作業や地形測量、空中写真撮影等の記録作業を行い、完了したのち埋め戻し作業を行った。

結果として、遺物は2層から縄文早期土器片が出土した。遺構は3層上面で集石遺構を1基確認した。

まとめ

今回の調査では、縄文時代早期の土器片に伴い集石遺構が出土した。また、確認された集積遺構は土坑を伴わず、被熱を受けていないものであった。地形は調査区の南西にある谷に向け傾斜しており、柱穴や土坑は確認されなかった。このことから、倉子遺跡における調査対象地は生活の中心部から離れた場所であったと思われる。



調査区遠景（諫早湾を望む）

【調査担当：新井】（文責：新井）

3. 早岐瀬戸遺跡【遺跡調査番号：202403】

所在地 佐世保市早岐2丁目 699-1 外
調査原因 早岐川河川改修工事
調査期間 令和6年7月3日～令和7年1月31日
報告書 令和12年度刊行予定

調査担当 長崎県埋蔵文化財センター
調査面積 520 m²
調査区分 本調査
処置 調査後工事

立地と環境

佐世保市南部の早岐地区に所在し、早岐瀬戸に面した沖積地に立地する。調査地点は早岐瀬戸が最も幅を狭める付近に位置し、周辺は宅地となっている。遺跡周辺は17世紀中頃に平戸藩による早岐瀬戸の埋め立てによって新しく造成された土地で、遺跡の中には平戸往還が通り港町・宿場町として栄えた。

調査

調査区は現代の段造成に合わせ連番となるL・M区を設定した。遺物包含層は、18世紀後半～19世紀前半代の層が主で、17世紀後半～18世紀前半代の層は局所的であった。遺構は、昨年度までの調査区と異なり、近代以降の井戸や厩跡（埋甕）を除き、町屋を示すような建物遺構等は検出されなかった。一方、L区で早岐川に向かって傾斜する地形を平場に造成するような石列や杭列、礫集中等、主に18世紀代の遺構が検出された。全体的に性格不明の土坑・ピットが多い。東端では中世の大型土坑1基が検出された。M区は18世紀中頃の大規模な火災整理土坑に占められており、大念寺側の西端で18世紀後半以降の上水道と見られる暗渠跡・石列・玉砂利敷きが検出された。下層では潟土は認められず、風化砂岩の地山が掘削限界となった。出土遺物はコンテナ箱で350箱を数え、近世の肥前系陶磁器が大多数を占める。

まとめ

令和元年度から6か年計画で実施してきた本調査を終え、河川改修工事によって新たな河川・護岸等として開削される範囲の現地作業をほぼ終了した。6か年で出土した遺物は2,800箱を超え、検出された遺構も膨大である。今後は出土遺物や調査記録類の整理作業に本格的に着手する。近世の埋立地業や町屋の成り立ちをはじめ、前時代までの様相も含めた遺跡の内容をまとめていく予定である。

【調査担当：松元・今西】（文責：松元）



調査地位置図



石列と上水道（右側の窪地が火災整理土坑）

4. 水中遺跡分布調査【遺跡調査番号：202405】

所在地	佐世保市外4市	調査担当	長崎県埋蔵文化財センター
調査原因	県内水中遺跡分布調査	調査面積	-
調査期間	令和6年度（通年）	調査区分	分布調査
報告書	令和8年度以降刊行予定	処置	現状保存
調査			

①潜水調査等（県北地区）

令和6年度は、佐世保市針尾中町小鯛浦、平戸市志々伎町志々伎湾、同市大島村的山湾の3地区で潜水調査等を行った。佐世保市小鯛浦の調査では、集落の沿岸において、青磁・白磁碗などの中世貿易陶磁器類がまとまって散布していることが確認できた。集落の後背丘陵に位置する針尾城跡では、佐世保市の確認調査で12～14世紀代の龍泉・同安窯系の青白磁が出土しており、これらも針尾氏が土着した頃に伴う遺物の可能性がある。平戸市志々伎湾の調査では、志々伎集落の前面海域2か所と野子集落の前面海域2か所、その他1か所の合計5か所で潜水調査を行った。野子集落の陸上踏査では、龍泉窯青磁片が十数点採集されており、周辺海域に中世遺跡が存在する可能性を追って潜水調査を進めたが、縄文時代の石器類や近世陶磁器類は認められたものの、中世に属する遺構や遺物は発見できなかった。的山大島の的山湾内では、大島港の西方に位置する本山神社の正面海域と的山湾西奥に入り込む板ノ浦の2か所で潜水調査を行った。板ノ浦では、海底地形が立ち上がる水深5m前後の海底面において、時期不詳の土器片を採集している。フジツボ類が付着して視察がしづらいが、内外面に調整痕を有する掌大の厚手の土器で、縄文土器または古代の製塩土器などの可能性がある。

②陸上踏査（島原地区）

令和6年度下半期は、有明海沿岸の陸上踏査を行った。調査箇所は、島原市13か所、諫早市20か所、雲仙市21か所、南島原市31か所、合計85か所である。遺物は表面採集のみとし、必要に応じて写真撮影とハンディGPSによる位置情報の取得を行った。

陸上踏査の結果、各地で縄文及び弥生時代を主とした遺物の散布地を確認できた。出土遺物は、縄文、弥生の土器類が大半で石器等の出土はわずかである。有明海沿岸においては、出土遺物に占める漁労具の割合が相対的に低く、県北地区に見られるような海への指向性はあまり認められない。石器類の出土比率が低い原因としては、石器石材の原産地が島原半島に乏しいことや縄文遺跡が海没する原因の一つとされるハイドロアイソスタシー現象の影響が有明海沿岸に及んでいない可能性も考えられる。

有明海沿岸部では、「すくい」と呼ばれる石積を用いた古式漁法が営まれたことで知られている。今回の陸上踏査でも、有明海沿岸で「すくい」漁場跡が確認できた。「すくい」漁場は、半円形または楕円形を呈し、大きいものは径100mを超えるものもある。使用された石材は、多くは地元で産出される玄武岩を主としており、矢穴痕が認められる石材もあった。島原半島南岸には、方形のものはいくつかあったが、石材も一回り大きく、削岩機の痕を残すことから近代以降の所産と考えられる。

【調査担当：宮武・片多】（文責：宮武）

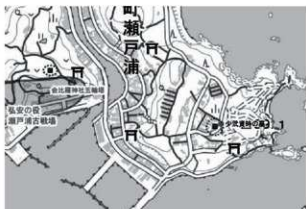
5. 少武資時の墓周辺遺跡（仮）【遺跡調査番号：202407】

所在地 志岐市芦辺町瀬戸浦 274-1、274-2、266
調査原因 元寇関連保存・活用事業
調査期間 令和6年7月22日～令和6年8月9日
報告書 令和7年度刊行予定

調査担当 長崎県埋蔵文化財センター
調査面積 32 m²
調査区分 試掘調査
処置 調査後埋め戻し

立地と環境

少武資時の墓周辺遺跡（仮）は、県指定史跡「弘安の役瀬戸浦古戦場」から、東に直線距離で約700mに位置する。この古戦場から、瀬戸浦をはさんで岬状に突出した丘陵の頂部には、明治26年に少武資時の墓と推定された平面プラン長方形の石積みの遺構があり、昭和19年に建設された志岐神社では、この少武資時公を祭神として祭っている。周辺は「少武公園」という国定公園となっている。



調査地位置図（縮尺任意）

調査

調査地は、丘陵の頂部から東側の緩斜面に位置する。旧地形を比較的良好に残すと考えられた丘陵の端部に3つのトレンチを設定し、遺跡の残存状況について把握を目指した（Tr.1～Tr.3）。また丘陵の尾根部を断ち割るようしてTr.4を設定し、旧地形の残存状況の把握を目指した。また公園を管理する方から石組遺構の存在をご教示いただいたため、それを囲むように3m×3mのトレンチを設定した（Tr.5）。



Tr.2 掘削終了状況（南東から）

少武資時の墓の周辺には七つの墓があったとする文献があるため、この石組遺構はこうした墓の一つであることが期待された。

調査は、掘削と埋め戻しをすべて人力で行った。合計5か所の試掘坑（試掘トレンチ）で調査面積32 m²の掘削を行った結果、地表下には風化凝灰岩由来の岩盤層に近い土層、あるいは風化玄武岩の岩盤が露出し、削平が大いに進むことが判明した。また Tr.5 の石組遺構は戸跡であることが明らかとなり、床面からは洋釘を用いた鉄製品が出土した。放射性炭素年代測定 AMS 法の結果、2σ 暦年代範囲（確率95.45%）で複数の暦年代範囲が示されたものの1918-1954 cal AD（20.96%）という年代が得られていることから、大正から昭和初期の遺構である可能性が高い。遺物は Tr.3 で表土から中世の青磁小片と黒曜の小片等が出土した。

まとめ

今回の調査地周辺は削平が大いに進み、元寇の実態解明に直接つながる手掛かりは得られなかった。

【調査担当：白石・山梨】（文責：白石）

6. 弘安の役瀬戸浦古戦場（隣接地）こうあんのかきせとらうこせんじょう【遺跡調査番号：202408】

所在地 壱岐市芦辺町箱崎大左右触 689
調査原因 元寇関連保存・活用事業
調査期間 令和6年7月22日～令和6年8月9日
報告書 令和7年度刊行予定

調査担当 長崎県埋蔵文化財センター
調査面積 20 m²
調査区分 試掘調査
処置 調査後埋め戻し

立地と環境

弘安の役瀬戸浦古戦場は、弘安の役（1281年）の際、朝鮮半島から南下してきた東路軍が、船匿城に居住したと伝わる少武資時と合戦し、また壱岐の占領後、博多湾からの侵攻に失敗して壱岐に引き返した際、再び追撃してきた鎌倉幕府軍と交戦したと伝わる場所である。芦辺湾に面した東西約300m南北約100mの南向きの斜面が遺跡の範囲として周知されており、昭和50年には県指定史跡となっている。周辺には「かくれ穴」や「千人塚」といった、元軍による被害を伝える伝承地が多く存在する。

調査地は、西から東に緩やかに下る尾根の頂部、金毘羅神社の裏手に位置する。この金毘羅神社について、『壱岐名勝図誌』には阿弥陀（アミダ）堂として記載があり、平清盛の御願所として始まったとされる長徳寺が移転されたことがある場所とされている。現状では荒蕪地であり調査開始前には草木や女竹が生い茂っていた。調査地と金毘羅神社の間には、4基から5基の五輪塔が、玄武岩礫と風化したコンクリートによって作られた土台の上に並んでいる。（「金毘羅神社五輪塔」として周知されるものか。ただし遺跡地図の場所とは異なる。）また調査地には、不整形の石積みの上に玄武岩の板石を用いて作られた祠が築かれているが、荒蕪地になって以来、管理はされていないという

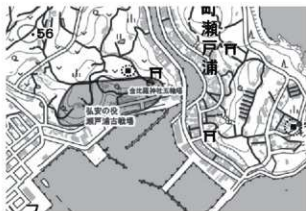
調査

調査は、掘削と埋め戻しをすべて人力で行った。合計3か所の試掘坑（試掘トレンチ）を設定し20 m²の掘削を行った。すべての調査坑で削平が大いに進んでいる状況が確認され、耕作土の下は風化玄武岩がまばらに見られる岩盤層に近い土層であった。遺物は出土しなかった。

まとめ

大いに削平される状況が確認され、元寇の実態解明に直接つながる手掛かりは得られなかった。

【調査担当：白石・山梨】（文責：白石）



調査地位置図（縮尺任意）



Tr.3 掘削終了状況（北東から）

ひきだせる
7. 稗田原遺跡【遺跡調査番号：202409】

所在地 島原市稗田町甲 203-1、203-5
調査原因 一般県道礪石原松尾町停車場線道路改良工事
調査期間 令和6年9月26日～令和6年11月28日
報告書 令和7年度刊行予定

調査担当 長崎県埋蔵文化財センター
調査面積 261.7 m²
調査区分 本調査
処置 調査後工事

立地と環境

稗田原遺跡は島原半島の北東部、島原市稗田町甲に所在する遺跡である。島原市に編入合併する以前の自治体では三会村木崎名に属していた。

遺跡の立地は雲仙火山から有明海へと延びる沖積平野の台地上で、標高は約20～50m程度である。周辺は宅地や傾斜地を利用した段々畑が広がり、様々な作物が栽培されている。

稗田原遺跡範囲内の県道には、東西に走る「礪石原松尾町停車場線」及び南北に走る「野田島原線」がある。三会ICや国道251号線に接続するこれらの道路は交通量が多く、頻繁に行われた道路改良工事に伴って長崎県教育委員会による本調査が過去10回実施されている。



調査地位置図

調査

調査では、中世末頃の戦国時代を中心とした遺構・遺物が検出された。遺構は、大型の土坑1基や柱穴約50基、近世以降の溝2基を検出した。遺物では、唐津焼といわれる国産陶器碗や土師質土器、瓦質土器が出土し、中国や朝鮮からの貿易陶磁器が出土した。また特筆すべき遺物として中国象棋（シャンチー）系遊戯の駒が出土した。



調査区から有明海を望む（北西から）

まとめ

今回の調査では、主に1580～1590年頃と想定される遺構・遺物を検出した。象棋系遊戯駒を中心として中国・朝鮮との交流を想起させる遺物が多く、今後周辺遺跡の調査成果や文献資料等から遺跡の性格を検証したい。また往時の三会村周辺は、龍造寺軍と薩摩・有馬連合軍との激戦地である「沖田畷の戦い（1584）」古戦場が目前であり、大きな時世の視点からも検証を進めていきたい。これまで不透明であった三会周辺の歴史を解明する手がかりとなる、大きな成果が得られた調査であった。

【調査担当：小川】（文責：小川）

8. 樋ノ迫遺跡【遺跡調査番号：202411】

所在地	雲仙市吾妻町古城名字樋ノ迫 952-1 の一部	調査担当	長崎県埋蔵文化財センター
調査原因	一般国道 251 号改良工事（瑞穂吾妻バイパス）	調査面積	168 m ²
調査期間	令和6年11月7日～令和7年1月6日	調査区分	本調査
報告書	令和7年度刊行予定	処置	調査後工事

立地と環境

樋ノ迫遺跡は吾妻町の東端、有明海に注ぐ田内川の河口から1,400mほど南東の標高24mほどの谷底平野に位置する。遺跡の周辺は、田内川を中心に田圃が展開され、宅地や牛舎が点在している。

樋ノ迫遺跡のある雲仙市吾妻町は南方方向の雲仙岳側に旧石器時代～縄文時代の遺跡が多く、北方方向の有明海側には墳墓、古墳、条里跡、城跡などの弥生～中世、近世の遺跡が点在している。



調査地位位置図

調査

調査区は、1枚の圃場で調査対象地の際から控えを取り、重機による表土掘削を行ったのち、5m単位のグリッドを設定し人力掘削を開始した。

結果として、時代の異なる石列2本を検出し、写真撮影ののち実測作業を行い記録した。遺物の取り上げは層単位で行い、必要に応じて適宜写真撮影を行った。調査の終盤に土層実測作業や地形測量、空中写真撮影等の記録作業を行い、完了したのち埋め戻し作業を行った。



2本の石列の検出状況（北から）

まとめ

今回の調査では、中世から近現代まで連続と営農していたことを思わせる土壌の堆積を確認した。石列は農地の区画整備に伴うものである可能性が高い。

遺物は近世陶磁器片、中世土師器片、龍泉窯の青磁等の輸入陶磁器片が少量出土した。また、遺跡最下層となる砂礫層から律令期の須恵器大甕片が出土した。大甕片は割れ口が鋭利であることから、自然災害等で一瞬にして埋没したと考えられる。

【調査担当：新井】（文責：新井）

9. 安国寺前遺跡(原の辻遺跡)(隣接地)【遺跡調査番号: 202414】

所在地 荏岐市芦辺町深江鶴亀舩 522-1

調査担当 長崎県埋蔵文化財センター

調査原因 しまの遺跡の魅力探求事業

調査面積 150 m²

調査期間 令和6年10月15日～令和6年11月22日

調査区分 試掘調査

報告書 令和7年度刊行予定

処置 調査後埋め戻し

立地と環境

安国寺前遺跡は、県史跡安国寺跡の南側に位置し、南北約170m、東西約80mが弥生時代・古墳時代・中世の遺物包含地として周知されている。平成7年度および令和2年度に実施された原の辻遺跡関係地区(旧安国寺前A遺跡)の調査の際、古墳時代前期後半から中期前半にかけての土器が、沼状堆積層よりまとまって出土した。今回の調査地は、この時期の居住空間の発見を目的として、安国寺前遺跡から東に50m、上述の地点から北に150m離れた地点を選定した。現状では休耕地である。

調査

当初、調査地の下方(南側)は谷頭と呼ばれる地形と推測されたが、重機での表土掘削の結果、耕作土の下に盛土が分厚く堆積し、もともとは谷地形であることが判明した。調査区西隅において、西から東へ傾斜する風化岩盤層の落ち込みが見られたため、この傾斜を追うようにして、西側の調査杭から東へ約9m、幅1mの範囲を掘削した。その結果、大別7層の自然堆積層が確認された。整理作業により分析中であるが、現状では1層が近世・近代層、2層が近世層、3層は4つの層位に細別される中世層、4層から7層は古代層であると判断される。3層において鉱物の沈着による硬化層が見られたことから、中世末から近世にかけての水田の可能性が考えられる。出土遺物では中世の遺物が多く、次いで古代の遺物が見られ、弥生時代の遺物はわずかに見られる程度であった。最大掘削深度は、排水用カマバ底にて地表下3.2mとなったが、弥生時代・古墳時代の層位に到達することはなかった。

まとめ

調査目的として設定した古墳時代前期後半の遺構・遺物は見つからなかった。しかし、今回の調査で見つかった遺物が、谷を下流へ移動してきたことはおおむね確実と言えるため、遺物の詳細な分析により、調査地の上流に、どの時代の人々の活動があったかを知るための、重要な手がかりが得られた。ただ、明確な遺構は検出されなかったことから、遺跡の範囲の拡張を必要とするような所見は得られなかった。



調査地位置図(縮尺任意)



掘削終了状況(北西から)

【調査担当: 白石・山梨】(文責: 白石)

10. 関線遺跡（原の辻遺跡）（隣接地）【遺跡調査番号：202415】

所在地 苓岐市芦辺町深江栄触519

調査担当 長崎県埋蔵文化財センター

調査原因 しまの遺跡の魅力探求事業

調査面積 25 m²

調査期間 令和6年10月25日～令和6年11月22日

調査区分 試掘調査

報告書 令和7年度刊行予定

処置 調査後埋め戻し

立地と環境

関線遺跡では、昭和29年（1954年）と平成7年（1995年）には丘陵裾部において2地点の列墓が確認され、また令和3年度から令和5年度にかけて実施された丘陵上の調査では、この列墓とほぼ同時期の甕棺（小児棺）と、居住空間が存在したと推定される状況が確認されている。今回の調査地は、この丘陵上の調査地点の北西に位置し、現在切通となっている小谷を越えて、直線距離で約170mに所在する。

調査地は現状では休耕地（水田）であるため、切土と盛土が一見して十分に予想され、小規模な試掘坑（TP）を複数箇所設定することによって、旧地形の把握を目的とした。

調査

TP1～TP7の7つの試掘坑を設定し、人力掘削により、調査を行った。このうちTP1とTP2については、両者を連結し幅2m長さ7mの調査区とし、そのうち幅1mを地表下1.7mまで掘削した。その結果、山側においては岩盤層まで削平がなされ、谷側では地表下1.3m程度の盛土の下に、自然堆積層が見られた。自然堆積層直上の盛土から、龍泉窯系青磁や土師皿がまとまって検出されたが、これらの遺物は削平の初期段階でTP1,2の上方から土を掻き落した際に堆積した可能性がある。

TP3では地表下40cmより下は風化岩盤層であった。TP4、TP5では、地表下0.7m程度まで盛土が堆積することを確認し、掘削を終了した。TP6では、地表下1.5mより下に厚さ15cm程度の自然堆積層と、その下には東から西に傾斜する無遺物層及び風化岩盤層が確認された。TP7では地表下0.5mまで盛土であることを確認し、掘削を終了した。

まとめ

調査の結果、谷の落ち際の位置を把握することができた。また盛土からは、上述の貿易陶磁や土師皿に加え、少量の弥生土器や黒曜石製品も見られ、周辺の遺跡の広がりを考える手がかりが得られた。ただ、遺跡の範囲の拡張を必要とするような所見は得られなかった。



調査地位置図（縮尺任意）



Tr.1, 2掘削終了状況（北東から）

【調査担当：白石・山梨】（文責：白石）

11. 長崎西役所跡【遺跡調査番号：202416】

所在地 長崎市江戸町2-45

調査原因 旧県庁舎跡地活用計画

調査期間 令和6年11月22日～令和6年12月20日

報告書 刊行予定なし

調査担当 長崎県埋蔵文化財センター

調査面積 68㎡

調査区分 範囲確認調査

処置 調査後埋め戻し

立地と環境

長崎西役所跡は金毘羅山から南西に岬状に伸びる台地の先端に立地する。調査箇所は役所部分を囲む高石垣の裾部に接続する「大波止」に相当する。旧地形は岬状の台地が海へと没する付近と想定される。現況は旧県庁第3別館の駐車場であるが、地表下にはそれ以前の長崎警察署に付随する戦後建造の半円形コンクリート建物基礎が残存する。

調査

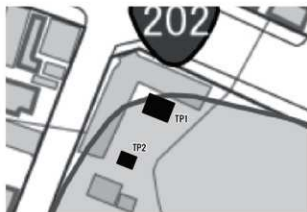
近世以前の埋蔵文化財の有無確認を主眼とし、半円形建物基礎を一部にかすめつつも近現代の造作を免れているであろう範囲を想定し試掘坑を2か所設定した。TP1では、地表下0.4mで半円形建物のコンクリート基礎が検出された。地表下1mに原爆後の瓦礫整理層と考えられる土層が検出され、コンクリート基礎はこの上に載る格好となる。その下は地表下1.8mまで幕末から近代と考えられる造成層の堆積が認められた。

この造成層中に板石や石垣の築石と見られる石材が局所的に敷設されるように検出されており、近世の石材が転用された可能性がある。地表下1.8mで近世の陶磁器や瓦を含む黒褐色砂質土層（Ⅲa層）が検出された。平成22年の高石垣調査で検出された根石下端の標高とほぼ等しく、絵図に描かれた大波止の地表層の可能性がある。その下は褐色泥礫層（Ⅲb層：大波止の基層か）となり地表下2mで掘削限界となった。近世層の出土陶磁器は、Ⅲa層が17世紀後半から19世紀初頭にかけて、Ⅲb層が17世紀中葉から18世紀初頭にかけてのものが認められる。TP2では、地表下1mの焼土層（原爆後の瓦礫整理層）まで現代の造成土の堆積が認められた。地表下1.5mで検出された近世層（大波止か）までは近代の造成層が堆積する。近世層はTP1と同様、黒褐色砂質土で局所的に円礫を多く含む。

まとめ

今回の調査では、長崎西役所の高石垣の裾部に拉がる大波止平場跡の可能性ある土層を確認することができた。これまでの調査履歴とともに、今後の県庁舎跡地活用計画に資することを期待したい。

【調査担当：松元・今西】（文責：松元）



調査地位位置図



TP1 完掘状況（底面の黒褐色土層が近世）

12. 島原道路関係試掘・範囲確認調査

所在地 島原市及び雲仙市

調査担当 長崎県埋蔵文化財センター

調査原因 島原道路（有明瑞穂バイパス、瑞穂吾妻バイパス）建設工事

調査区分 試掘・範囲確認調査

報告書 刊行予定なし

処置 一部本調査（④下雨粒木遺跡（隣接地））

立地と環境

調査対象地は、諫早市と南島原市を結ぶ高規格道路、通称「島原道路」のうち有明瑞穂バイパス、瑞穂吾妻バイパスの建設予定地であり、島原半島の東部から北西部の地域にある。立地は、雲仙火山から伸びる火山麓扇状地の上に位置し、現状は畑地や圃場が多く、一部は宅地である。

調査

試掘坑は2m×2mを基本とし、現場の環境や地形に応じて長さ・幅を最小1mから最大5mの規模で設定し、場合によっては拡張を行った。表土掘削及び埋め戻しは、状況に応じて人力又は機械で行い、遺物包含層及び遺構の精査はすべて人力で行った。

①清水山遺跡（隣接地）地点2・地点3【202404】

所在地 島原市有明町3190-1他（地点2）、3305-1他（地点3）

調査面積：68.5㎡

調査期間：令和6年6月5日～令和6年6月28日

調査対象地は、標高70～72m付近の丘陵に位置する。南方向へ250m程離れた場所にある清水神社には、平安時代作の金銅仏で島原市指定有形文化財の観音菩薩が祀られており、境内には湧水池がある。試掘坑は地点2に4か所、地点3に6か所設定した。

基本層序は、1a層耕作土、1b層旧水田、2層（褐色土）、3層（褐色土）、4層（褐色土）、5層（黒褐色土）、6層（黒褐色土）やや暗色、7層（黒色土）、8a層（にぶい黄褐色土）、8b層（褐色土）、9層（橙色土）火砕流・土石流による堆積と整理できる。TP1とTP6は掘削深度20～30cm程度で9層を確認した。また、地点3では9層近くまで掘削すると湧水する。

調査結果、地点2についてはTP2-1・TP2-2の2層で溝状になると思われる土坑1基を検出した。遺構上面は削平されており、埋土から黒曜石剥片、龍泉窯の青磁碗、鉄片が出土したが、遺物量が少な



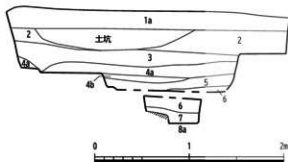
清水山遺跡（隣接地）調査地位置図



清水山遺跡（隣接地）地点3 TP5 北壁状況（南から）

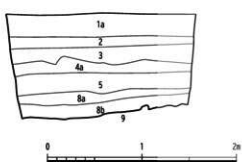
く土坑を評価するには至らなかった。また、明瞭な遺物包含層は確認できなかった。地点3では、TP5の2層、TP8の3層と5層から黒曜石剥片などの遺物が出土したが、いずれも出土量が少なく明瞭な遺物包含層として認められなかった。

H=69.400



清水山遺跡（隣接地）地点2 TP2-1 西壁土層図（S = 1/40）

H=69.400



清水山遺跡（隣接地）地点3 TP9北壁土層図（S = 1/40）

【調査担当：前田・新井】（文責：前田）

②笠山遺跡（仮）【202406】

所在地：島原市有明町湯江乙1368-1 他

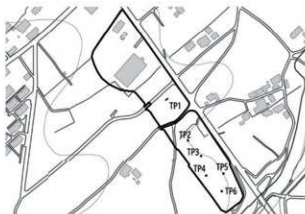
調査面積：24 m²

調査期間：令和6年7月5日～令和6年8月6日

調査対象地は、標高65m付近の丘陵に位置する。現地踏査の際には、石皿や多くの黒曜石剥片を採集している。試掘坑は6か所に設定した。

基本層序は、1a層・1b層耕作土、1c層近代造成土、3層（黄褐色土）、4層（暗褐色土）、6層（暗褐色土）、7層（黒褐色土）、8a層（黄褐色土）、8b（黄褐色土）垂角礫を多く含む、9層（灰白色礫層）火砕流・土石流による堆積と整理できる。

調査結果は、遺物はTP4～6で縄文時代早期土器や石器が出土したが、出土量がわずかで明瞭な遺物包含層として認められなかった。また、遺構は確認できなかった。



笠山遺跡（仮）調査地位位置図



笠山遺跡（仮）TP2完掘状況（北から）

【調査担当：小川】（文責：前田）

きょうのつば
③京ノ坪遺跡（仮）【202410】

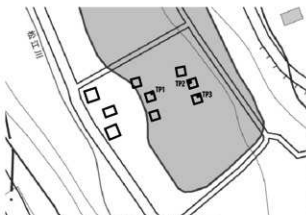
所在地：雲仙市瑞穂町伊福乙 2460-2

調査面積：23.52 m² 調査期間：令和6年8月26日～令和6年9月13日

調査対象地は、松江川の河口から約1.1km上流の標高約17～32mの丘陵の裾に立地する。平成5年（1993年）に実施した本調査で縄文時代晩期の甕棺墓や古墳時代の住居跡を確認した調査区（1A区）の隣接地にあたる。試掘坑は3か所に設定した。

土層はTP1とTP2・TP3で異なる。TP1では、1a層（暗褐色土）は耕作土で厚さ30～40cm程度、1b層～1e層は造成土で厚さ1mほど堆積していた。造成土下の標高28.0m付近で河川堆積と思われる12層（砂層）と13層（礫質砂）を確認した。TP1付近は、過去の本調査で遺物包含層や遺構を確認した標高値は28.7～28.9mであったことから、遺跡が残存している可能性は低いと判断した。TP2・TP3付近が、現地表と過去の本調査で遺構を確認した標高値が29.5m前後とほぼ同じであったことから、遺構の上面が削平されていることを想定して調査を行った。1a層の耕作土は厚さ約20cm、2層（褐灰色土）旧水田、3層（黒褐色土）、4層（灰黄褐色土）、5層（にぶい黄褐色砂質土）、6層（灰黄褐色礫質砂）、7層（褐色砂質土）、8層（灰黄褐色細礫）、9層（灰黄褐色砂）、10層（暗褐色砂）、11層（にぶい黄褐色砂質土）と整理できる。遺物包含層は認められず、遺構は確認できなかった。

今回の調査対象地では、遺跡の残存は確認できなかった。しかし、平成5年（1993年）の本調査時の地図と現状を比較すると、盛土工を行ったと思われる場所があり部分的に遺跡が残存している可能性がある。そのため、周辺地において開発行為等が計画された場合は、慎重な対応を要する。



京ノ坪遺跡調査地位置図



京ノ坪遺跡 TP1 1c層（造成土）出土高坏脚部

【調査担当：前田】（文責：前田）

しもあまつぎ
④下雨粒木遺跡（隣接地）【202412】

所在地：島原市有明町大三東戊 2558、2559-1

調査面積：11.6 m² 調査期間：令和6年10月8日～令和6年10月31日

調査対象地は、標高80m付近の丘陵の緩傾斜地帯に立地し、令和4年（2022年）に実施した本調査の調査区から北西方向へ50m程離れた場所にある。試掘坑は2か所に設定した。

基本層序は1層耕作土、2層（黒褐色土）、3層（にぶい黄褐色土）、4層（黒褐色土）、5層（灰黄褐色土）、6a層（にぶい黄褐色土）、6b層（灰黄褐色土）、7層（褐灰色土）、8層（明黄褐色土）と整理できる。

調査結果、TP1の5層上面で落とし穴状遺構、TP2の5層上面で3基の土坑を検出した。遺物を伴わなかったため詳細な時期については不明であるが、縄文時代と思われる。また、2層、3層、4層で遺

物を確認した。このことから、試掘坑付近には縄文時代の遺構や遺物が包蔵されていると考えられることから、本調査が必要であると判断する。また、調査対象地外に遺跡が残存している可能性はあるため、周辺地において開発行為等が計画された場合は、埋蔵文化財保護のための対応を要する。



下南粒木遺跡（隣接地）調査地位置図



下南粒木遺跡（隣接地）TP1 落とし穴状遺構完掘状況

【調査担当：川畑・前田】（文責：前田）

⑤上松高野遺跡（隣接地）【202413】

所在地：島原市有明町大三東戊 2525-1

調査面積：4 m²

調査期間：令和 6 年 10 月 8 日～令和 6 年 10 月 31 日

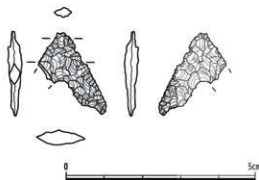
調査対象地は、標高 70m 付近の湯江川右岸の丘陵上に位置する。試掘坑は 1 か所に設定した。

基本土層は、1 層耕作土と造成土（2 層と 3 層の攪乱土）、4 層（黒褐色土）、5 層（灰黄褐色土）、6 層（いり黄褐色土）、7 層（褐灰色土）、8 層（明黄褐色土）である。

調査結果、1 層より黒曜石製のナイフ形石器と石鏃が 1 点ずつ出土した。しかし、明瞭な遺物包含層は認められず、遺構は確認できなかった。



上松高野遺跡（隣接地）調査地位置図



上松高野遺跡（隣接地）1 層出土黒曜石製石鏃（S = 1/1）

【調査担当：川畑・前田】（文責：前田）

⑥神ノ前遺跡（仮）【202417】

所在地：雲仙市吾妻町古城名 945 他

調査面積：16 m²

調査期間：令和 6 年 12 月 9 日～令和 7 年 1 月 6 日

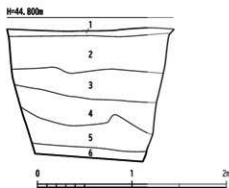
調査対象地は、標高 44m 付近の台地の上に立地する。北西方向へ 200m 程離れた同じ台地の先端部付近には向城跡があり、台地の下には守山条里跡や樋ノ迫遺跡が存在する。試掘坑は 3 か所に設定した。

土層は1層(暗赤灰土)耕作土、2層(にぶい黄褐砂質土)旧耕作土、3層(オリーブ褐砂質土)造成土、4層(灰黄褐色粘質土)、5層(明黄褐粘質土)、6層(極暗褐色粘質砂)と整理できる。

調査結果、TP2の4層で中世末までの土師器や青花の細片が出土したことから、中世末までの遺物包含層と考えられる。しかし、各試掘坑と現地地形の状況から4層は極めて狭い範囲でのみ残存していると推測される。今回の調査対象地内では、良好な遺物包含層は認められず遺構は確認できなかったが、調査対象地外に遺構が残存している可能性があるため、周辺地において開発行為等が計画された場合は、埋蔵文化財保護のための対応を要する。



神ノ迫遺跡(仮)調査地位位置図



神ノ迫遺跡(仮) TP2 南壁土層図 (S = 1/40)

【調査担当: 濱村】(文責: 前田)

⑦戸切遺跡(仮)【202418】

所在地: 島原市有明町湯江乙 1300、1308

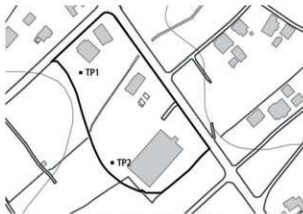
調査面積: 8㎡

調査期間: 令和7年1月16日～令和7年1月31日

調査対象地は、標高65m付近の丘陵の緩傾斜地帯の上に立地する。南東側の隣接地は②笠山遺跡(仮)【202406】の試掘調査地である。試掘坑は、工事計画図を基に2か所に設定した。

土層は、1a層耕作土、1b層耕盤層、2a層(黒褐色土)、2b(灰黄褐色土)、3層(にぶい黄褐色土)、4層(暗褐色土)、5層(黄褐色土)、6層(暗褐色土)、7a層(黒褐色土)、7b層(黒褐色土)礫を含む、8層(黄褐色土)、9(灰白色礫層)火砕流・土石流による堆積と整理できる。

調査結果、土層については2層以降の自然堆積が良好な状態で残存していたが、遺物包含層は認められず、遺構は確認できなかった。



戸切遺跡(仮)調査地位位置図



戸切遺跡(仮) TP2 完掘状況 (北から)

【調査担当: 小川】(文責: 前田)

⑧新高野遺跡（仮）【202419】【202420】

所在地：島原市有明町湯江丙 1678-1、1679-2、1690-1、1700

調査面積：45 m² 調査期間：令和7年1月16日～1月31日、令和7年3月3日～3月14日

調査対象地は、標高70m付近の丘陵の緩傾斜地帯に位置する。調査は2回に分けて実施し、試掘坑は合計6か所に設定した。

土層は1a層耕作土、1b層耕盤層、2a層（黒褐色土）、2b層（灰黄褐色土）、3層（にぶい黄橙色土）、4層（暗褐色土）、5層（黄褐色土）、6a層（灰黄褐色土）、6b層（暗褐色土）、7層（黒褐色土）、8（黄褐色土）、9層（灰白色礫層）火砕流・土石流による堆積と整理できる。

調査の結果、TP2の2b層～3層上位で縄文土器細片が30点ほど出土したが、各試掘坑と周辺環境から局所的に残存していたものと考えられる。また、TP3では4層中より安山岩製のナイフ形石器が1点、TP6の4層上面で黒曜石製の打製土磁の細片が1点出土したが、調査面積に対して出土量が少なく明瞭な遺物包含層として認められなかった。

今回の調査対象地内では、良好な遺跡の残存は確認できなかった。しかし、周辺環境や調査結果からTP4以外の試掘坑の南側（山側）に遺跡が残存している可能性がある。



新高野遺跡（仮）調査地位位置図



新高野遺跡（仮）TP1 南側土層堆積状況

【調査担当：小川・前田】（文責：前田）

まとめ

今回の調査で、遺構や遺物包含層が確認されなかった調査対象地については慎重に工事を進めることになった。遺構や遺物包含層が確認された下雨粒木遺跡（隣接地）については、埋蔵文化財の取り扱いについて文化財保護部局と事業者の間で協議を行うこととなった。なお、令和6年度に試掘・範囲確認調査ができなかった場所については、令和7年度以降も引き続き調査する必要がある。

報 告 書 抄 録						
ふりがな	ながさきけんまいぞうぶんかざいちょうきねんぼうさんじゅうさん					
書 名	長崎県埋蔵文化財調査年報33					
副書名	令和6年度調査分					
巻 次	33					
シリーズ名	長崎県埋蔵文化財センター調査報告書					
シリーズ番号	第55集					
編集機関	長崎県埋蔵文化財センター					
所在地	〒811-5322 長崎県壱岐市芦辺町深江鶴亀515-1 TEL0920 (45) 4080					
発行年月日	2025年11月28日					
所収遺跡名	所在地	遺跡コード		調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町	遺跡番号			
上大良遺跡	雲仙市	42213	198	20240513～20240520	6.0	道路
倉子遺跡	雲仙市	42213	230	20240513～20240606	240.0	道路
早岐瀬戸遺跡	佐世保市	42202	493	20240703～20250131	520.0	河川
清水山遺跡（隣接地）第2地点・第3地点	島原市	42203	-	20240605～20240628	68.5	道路
水中遺跡分布調査	佐世保市 島原市 諫早市 平戸市 南島原市	42202 42203 42204 42207 42214	-	20240401～20250331	-	分布調査
笠山遺跡（仮）	島原市	42203	-	20240705～20240806	24.0	道路
少式賀時の墓所周辺遺跡（仮）	壱岐市	42210	-	20240722～20240809	32.0	保存目的の 試掘調査
弘安の役瀬戸浦古戦場（隣接地）	壱岐市	42210	-	20240722～20240809	20.0	保存目的の 試掘調査
轉田原遺跡	島原市	42203	031	20240926～20241128	261.7	道路
京ノ坪遺跡	雲仙市	42213	069	20240826～20240913	23.5	道路
樋ノ迫遺跡	雲仙市	42213	-	20241107～20250106	168.0	道路
下雨松木遺跡（隣接地）	島原市	42203	-	20241008～20241031	11.6	道路
上松高野遺跡（隣接地）	島原市	42203	-	20241008～20241031	4.0	道路
安国寺前遺跡（原の辻遺跡）（隣接地）	壱岐市	42210	-	20241015～20241122	150.0	保存目的の 試掘調査
関繰遺跡（原の辻遺跡）（隣接地）	壱岐市	42210	-	20241025～20241122	25.0	保存目的の 試掘調査
長崎西役所跡	長崎市	42201	137	20241122～20241220	68.0	その他開発
神ノ前遺跡（仮）	雲仙市	42213	-	20241209～20250106	16.0	道路
戸切遺跡（仮）	島原市	42203	-	20250116～20250131	8.0	道路
新高野遺跡（仮）	島原市	42203	-	20250116～20250131	16.0	道路
新高野遺跡（仮）	島原市	42203	-	20250303～20250314	33.0	道路

長崎県埋蔵文化財センター調査報告書 第55集

長崎県埋蔵文化財調査年報 33
〔令和6年度調査分〕

2025年11月28日

発行 長崎県教育委員会
長崎市尾上町3番1号

印刷 株式会社 昭和堂
諫早市長野町1007-2